

長崎駅周辺エリア

■地区の概要

長崎駅は、明治以降の市の中心となる玄関口で、周辺にはオフィスビルや商業施設が集積し、日々多くの観光客や市民が行き交う賑わいのある市街地を形成しています。駅周辺では、新幹線、在来線といった鉄道施設の受け皿としての駅舎の整備とともに、国際観光都市長崎の玄関口にふさわしい都市拠点形成するため、土地区画整理事業が進められています。



コンセプト：長崎の顔にふさわしい光

市民・来訪者の交流・にぎわい空間となる、長崎の新たな陸の玄関口を形成する夜間景観の形成を目指します。

長崎駅周辺については、長崎駅周辺エリアデザイン指針や長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画との整合を図ります。現在進めている検討・設計・作業の中でイメージの検討を行います。

[長崎駅周辺エリアデザイン指針における心得]

世界新三大夜景にふさわしい光を演出する

- ・ 光の演出で、長崎の夜景をさらに魅力的にします。
- ・ 稲佐山などの視点場や山腹からの夜景の見え方に配慮する

■現状分析と課題

九州新幹線西九州ルートにの開業に向け、これから大きく変化します。新しい長崎駅舎や駅前広場は
国道 202 号線は、市の南北を繋ぐ重要な都市軸であり、格のある道路照明とすることが必要です。

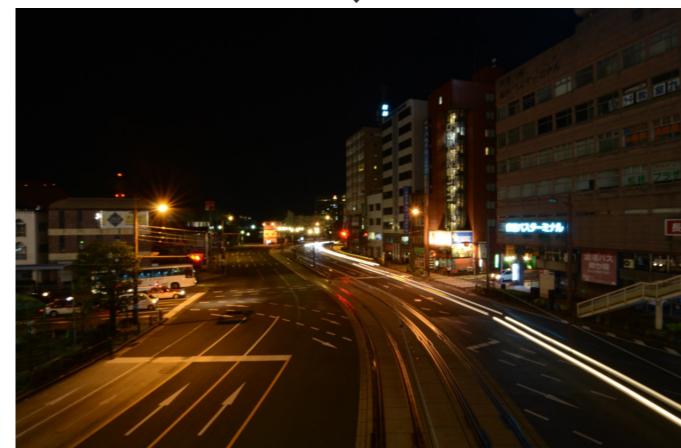
- ★ … ランドマーク
- 📷 … 調査写真撮影箇所



①国道 202 号線



②長崎駅前電停周辺

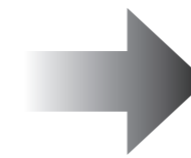


国道の主な道路照明はナトリウム灯である。路面電車のセンターポールに付属する灯具は、デザインが統一され、大通りとしての連続性が感じられる。



駅前広場に設置されたポール照明はグレアがひどく、白い明かりが眩しく感じられる。

	現状調査から見た問題点	
陰影の考え方		・駅前広場の明るさは十分すぎるほどで、 一様に明るく単調に感じる
色温度		・駅前は 4000-4500K ・車道はナトリウムランプの 2000K
鉛直面輝度		・窓明かりの無いビルが多く、暗く感じられる
グレア対策		・駅前広場（人工地盤上）のポール灯が 非常に眩しい
演色性の優先度		・ナトリウム灯や白々しいポール灯が多い
器具		・配光への配慮が感じられない
オペレーション		・夜間も煌々と明るい



夜間景観向上のための基本原則	
・駅前広場、ロータリー、車道は 2-5Lx 程度、 交差点・商店街は 5-30Lx 程度に設定する	
・3000K 程度に整える	
・ファサード照明を推奨しつつ今後検討とする	
・グレアに配慮された器具を使用する	
・人が多いエリアのため、 Ra90 以上を基本とする	
・ポール灯は配光制御された器具とする	
・時間によるライトダウンを検討 ・市内のイベントに合わせた演出を検討	

※ Lx (ルクス) とは：光によって照らされる面の明るさ (面積あたりの光束)
 ※ K (ケルビン) とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ (面積あたりの光度)
 ※ Ra (アールエー) とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位